

# 武石地域自治センター

## 令和2年度 重点目標

- 1 参加と協働による住みよいまちづくり
- 2 賑わいの創出と地域を守る拠点の整備
- 3 観光資源を生かした交流人口の拡大と農業資源の実用化・災害復旧事業の推進

重点目標	参加と協働による住みよいまちづくり			部局名	武石地域自治センター	優先順位	1位
総合計画における位置付け	第1編 市民が主役のまちづくり 第1章 自治の推進による活力ある自立した地域社会の実現 第1節 参加と協働による自治の推進 第2節 地域内分権による地域の自治の推進			戦略 3 訪れたい・住みたいうた戦略 施策体系 ③ 移住・二地域居住を促進する施策の推進 戦略 4 ひと・地域の輝き戦略 施策体系 ④ 地域主体のまちづくりを進める地域内分権推進			
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(1)住みたい住み続けたいと思うまちづくりへの改革 イ 多様な主体が市政に参画・協働する制度づくり (2)支える財政基盤の改革 エ受益と負担のあり方の見直し			上田再構築プラン「7つの挑戦」における位置付け	Ⅲ-1-② 市内全域の繋がりにより均衡ある発展をめざし、各地域の市民と行政との定期的な交流（サテライト市長室）を推進、地域の強みを生かす地域内分権を推進。		
現況・課題	○住民自治組織が市民の参加と協働によるまちづくりをさらに推進するため、意見交換や学習会の機会を設け理解を共有しながら地域内分権を進めていく必要があります。 ○武石地域全域公園化構想（H22策定）は、「美しい武石地域の景観を存続する」ために自治連、地域協議会、住民自治組織、行政の四者で見直し、昨年度末に第二次武石地域全域公園化構想が策定されたことから、改めて地域住民へ周知するとともに引き続き、樹木破碎機、乗用草刈機、畦草刈機等の貸出をはじめ、獣害対策、花木苗支給等についても協働による景観整備を進める必要があります。 ○「小さな拠点」づくりの制度を活用し、地域課題の解決に向けたプロジェクト会議での研究を進めると同時に、市で取り組む最先端技術の導入については、庁内連携を図り、武石地域内での実証実験に向けた研究が必要です。 ○武石財産区有林の計画的な有効活用と友好都市である東京都練馬区と森林活用に向けた協定締結に向けた研究が必要です。 ○余里一里花桃の里運営支援は、武石地域全域公園化構想の推進に重要な取組のため、引き続き、地元推進団体等との協働による取組が必要です。						
目的・効果	○小さな拠点づくりの形成を推進し、武石地域の特色を生かしたスマートシティ化に取り組むことで、地域課題の解決と発展的で継続的な地域づくりが期待できます。 ○自治基本条例の基本理念を踏まえ、地域住民が自ら参加し地域内の課題を解決できる住民自治組織「住みよ武石をつくる会」を支援し、地域住民と行政の協働による地域自治を推進し地域が健康で元気なまちを創りあげるにより「健（康）幸（福）都市」の実現を目指します。 ○第二次武石地域全域公園化構想の理念を広く周知し、自らの地域を自らの手で美しくする活動を積極的に推進することで地域コミュニティの活性化が図られます。						
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
①	○ 住民自治組織との連携と「小さな拠点」づくり事業の推進 (1) プロジェクト会議による制度活用のための研究 (2) 発展的継続ができるメニューの選択に向けた取組 (3) 住民自治組織との連携とまちづくり計画に基づく事業支援	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月	(1) プロジェクト会議 6回開催 (2) 事業に応じた国の財政支援の選定 (3) 運営委員会への参加と支援	(1) プロジェクト会議は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため後期に開催を延期した。 (2) 財政支援の資料や先進事例の調査と資料収集を行い、会議の開催に備えた。 (3) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、運営委員会は未開催であったが、事務局を通じて住民自治組織との連携を図り、相談支援等を行った。	(1) プロジェクト会議は、住民自治組織の意向もあり開催には至らなかったが、制度活用のための研究、(2)の事業に結び付いた。 (2) ふるさと財団の「地域再生マネージャー事業」に応募し、令和3年度の事業採択により、小さな拠点づくり事業の推進に向けた第1歩となった。 (3) 運営委員会へもオブザーバーとして出席し、武石地域担当が積極的に運営支援を行った。		
②	○ スマートシティ化への取組 (1) 庁内連携（政策研究センター他）による地域課題解決及び持続可能で特色ある武石ブラッシュアップの研究	(1) 4月～3月	(1) 課題解決のための実証実験に向けた研究	(1) 政策研究センターと連携を図り、最先端技術を活用して解決する地域課題について住民自治組織の正副会長と意見交換を行った。	(1) 政策研究センターと連携を図り、最先端技術を活用して解決する地域課題について、住民自治組織の正副会長と意見交換を行った。		
③	○ 第二次武石地域全域公園化構想関連事業の推進 (1) 構想の周知と地域住民による協働事業の支援 (2) 花木苗等支給事業 (3) 樹木破碎機、草刈機の貸出事業 (4) 余里一里花桃の里運営支援事業	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月 (4) 4月～3月	(1) 自治センターだよりに2回以上掲載 (2) 3自治会等以上へ花木苗等の配布 (3) 自治会等へ延べ 10回以上 (4) 地域活動団体等との協働	(1) 第二次武石地域全域公園化構想のリーフレットを作成し、全戸配布を行って周知を図った。(1回) (2) 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う自治会事業の自粛等の影響などから希望自治会等が無く、配布実績無し (3) 自治会等へ次のとおり貸出しを実施 ア 樹木破碎機貸出事業 5回 イ 乗用草刈機貸出事業 8回 ウ 畦草刈機貸出事業 0回 (4) 地域活動団体等との協働 ア 仮設トイレ設置 設置期間：4月17日～5月6日 イ シャトルバス、ノルデックウォーキング運営支援は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	(1) 地域自治センターだより武石5月16日号において、第二次武石地域全域公園化構想の策定と市が行う事業を紹介し、周知を図った。 令和元年東日本台風で被災したアジサイ公園について、地元団体からの復旧要望に対し、市、自治会、地域協議会、自治会の四者で協議し、現時点での回答を行った。 (2) 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う自治会事業の自粛等の影響などから希望自治会等が無く、配布実績無し (3) 自治会等へ次のとおり貸出しを実施 ア 樹木破碎機貸出事業 5回 イ 乗用草刈機貸出事業 9回 ウ 畦草刈機貸出事業 0回 (4) 地域活動団体等との協働 ア 仮設トイレ設置 設置期間：4月17日～5月6日 イ シャトルバス、ノルデックウォーキング運営支援は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止		
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 ・住民自治組織との連携と「小さな拠点」づくり事業の推進は、地域内分権の確立に向け、住民自治組織「住みよ武石をつくる会」が主体的に取り組む活動を支援し、市民協働の取り組みを推進します。 ・スマートシティ化への取組は、庁内連携（政策研究センター他）による地域課題解決及び持続可能で特色ある武石ブラッシュアップの研究を推進します。 ・第二次武石地域全域公園化構想の関連事業の推進は、市、武石地区自治会連合会、武石地域協議会、地域推進団体等との協働で事業を推進します。			○取組による効果・残された課題 ・住民自治組織との連携と「小さな拠点」づくり事業の推進は、住民自治組織が主体的に取り組む活動を支援したが、まちづくり計画の推進のため、引き続き支援する必要があります。 ・スマートシティ化への取組は、上田市スマートシティ化推進計画に基づき武石地域でも具体的な事業実施を推進していく必要があります。 ・武石地域全域公園化構想の関連事業の推進は、「見える化」及び地域活動等を通じたシビックプライドの醸成により、地域の活性化を推進する必要があります。 ・余里一里花桃の里運営支援は、武石地域全域公園化構想の推進に重要な取組のため、引き続き、地元推進団体等との協働による取組が必要です。			

重点目標	賑わいの創出と地域を守る拠点の整備		部局名	武石地域自治センター	優先順位	2位
総合計画における位置付け	第2編 安全・安心な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第3節 安全安心に暮らせる環境の整備 第7節 地域防災力の向上と災害対応能力の強化		まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け		戦略 戦略 4 ひと・地域の輝き戦略 施策体系 ④ 地域主体のまちづくりを進める地域内分権推進	
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(2) 支える財政基盤の改革 ウ 市有財産の適正な管理と利活用		上田再構築プラン「7つの挑戦」における位置付け		Ⅲ-2-② 自主防災組織・消防団の育成・支援を強化、地域防災力の強化を図るとともに、火災や事前災害、大規模災害から命や財産を守る。地域に不可欠な消防組織や上田市防災支援協会（建設業界）との連携により防災力を高め、安全で安心して暮らせる上田市を再構築。	
現況・課題	○武石地域自治センターと周辺に位置する武石公民館（コミュニティホールを除く）、武石老人福祉センター寿楽荘、武石健康センターは、老朽化が著しく耐震基準も満たしていないことから、公共施設マネジメント基本方針に則り、これら4施設（合計床面積4,589㎡）を現武石公民館敷地に集約し、住民自治の推進やコミュニティ活動の拠り所、防災拠点を兼ね備えた床面積2,598.5㎡の武石地域総合センターとして整備を進めています。 ○全国的に自然災害が頻発する中、武石地域では予めから地域内の全自治会で災害時要援護者登録制度による住民支えあいマップが完成しており、自治会ごとの防災、避難体制の整備を進めてきました。武石地域は特に高齢化が進行していることから、各種警報発令時および災害時の避難方法、防災の備え、災害時の「自助・共助」等について、さらに住民自ら積極的に取り組む自主防災組織の育成が必要です。 ○武石診療所は地域の人口減少とともに患者数は減少傾向にあり、患者数の増加策や診療所の役割・業務形態の見直しなどが求められています。地域で一番身近な医療機関として、高齢者のみならず誰もが安心して医療が受けられるよう安定的な医療提供体制を構築していくことが必要です。					
目的・効果	○機能的で利便性の高い市民団体の活動拠点および防災拠点とする武石地域総合センターを整備し、市民との連携を深めることにより多くの市民の社会参加、健康づくり、生きがい対策、地域の賑わいの創出まで含めた市民協働による開かれた地域づくりが推進できます。 ○施設の集約と規模の適正化により、利便性の向上と維持管理経費の縮減、行政効率の向上が図られます。さらに、環境に配慮した施設の構造と適正な設備機器の導入によりCO2排出量の削減も期待できます。 ○自主防災組織リーダー研修、各自治会での防災訓練等により、地域住民の防災に対する認識と能力を高め、万が一の災害時にも被害を最小限に留めるとともに、互いに支え合う地域づくりを推進し暮らしの安心につなげます。 ○武石地域総合センターの運用にあたり公民館等関係機関との協議を図りスムーズな共用開始を進めます。 ○武石地域唯一の医療機関として、住民の要望に合ったサービスを提供するとともに、医療だけでなく保健師や関係機関と連携を図り地域住民の健康増進に寄与することを目指します。また、これまでの在宅医療を大事に家庭医として、プライマリケア（患者が最初に接する医療の段階）を実践し、介護、福祉を含めた生活全般をケアできるような診療所の実現を図ります。					
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
①	○ 武石地域総合センター整備 (1) 本体建設工事及び武石財産区材活用事業  (2) 進捗状況について住民への周知  (3) 施設供用開始に向けた利用促進への取組	(1) 4月～3月  (2) 4月～3月  (3) 4月～3月	(1) 竣工  (2) 建築現場見学会と進捗状況に併せた広報  (3) 利用団体等との調整	(1) 受託業者、関係部局が参画する毎週開催の定例会において各種連絡調整を行い、工事は順調に進められた。  (2) 建築現場見学会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期されたが、地域自治センターだよりにおいて毎号、武石地域総合センター建設通信で進捗状況を周知した。  (3) 10月23日に関係のある利用者団体との調整会議に向けた準備を関係部署とともに行った。	(1) 建築等工事、外構工事ともに予定のとおり期間内に竣工したことから、関係部署と調整を図り、3月29日に開所することができた。 武石財産区材を多く活用できたことで、温かみのある仕上がりとなり、武石財産区材のPRについては、広報紙、開所式等、多方面で行うことができた。 (2) 地域自治センターだより武石広での紹介、新型コロナウイルス感染症対策のうえで12月29日に2回に分けて住民見学会を行った。  (3) 武石公民館・教育事務所ほか関係部署と調整し、施設利用団体との調整を図り、スムーズな移転及び運営の移行ができた。	
②	○ 自主防災組織の育成と防災訓練の実施 (1) 自主防災組織リーダー研修会の実施  (2) 防災訓練の実施	(1) 6月～3月  (2) 8月～3月	(1) 全18自治会対象80人以上参加  (2) 開催参加者600人以上	(1) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を中止したが、冊子の配布を行い、啓発に努めた。 (2) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を中止したが、メール配信訓練を実施し、啓発に努めた。	(1) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を中止したが、冊子の配布を行い、啓発に努めた。 (2) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を中止したが、メール配信訓練を実施し、啓発に努めた。	
③	○ 武石診療所の維持・充実、運営あり方の検討等 (1) 診療所の課題整理 (2) 診療所のPR等情報発信  (3) 住民自治組織など地域内の代表者との情報意見交換会実施  (4) 診療所事業の充実 関係機関と連携し、地域住民の健康推進事業の充実 夜間・休日を利用した医療サービスの提供 (5) 診療体制の充実	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月  (3) 4月～3月 (4) 4月～3月 (5) 4月～3月	(1) 庁内検討会議の開催 6回 アンケート調査の実施 (2) 自治センターだより 6回 エリアトーク、メール配信随時 地域イベントへの参加  (3) 情報意見交換会 2回  (4) 夜間、休日の予防接種の実施 3回  (5) 感染症対策に伴う診療継続計画の見直し及び依田窪病院との連携体制の構築	(1) 内部検討会を実施した。（月1回、随時） アンケート調査を実施した。（9月） (2) 自治センターだよりに「武石診療所通信」を掲載した。（5/16、7/16、9/16号） 各種情報発信（予防注射、リハビリ等） エリアトーク、メール配信を随時実施した。 HPの更新とTwitterの開設（8月） (3) アンケート調査について意見交換を実施した。 地域協議会（8月）、住みよい武石をつくる会（8月） (4) 10月～12月（3回実施予定）  (5) 診療継続計画の見直しを実施した。（6月） 依田窪病院院長及び事務部長と今後の連携体制について意見交換を実施した。（6月）	(1) 内部検討会の実施（月1回、随時） アンケート結果を自治センターだよりに掲載（3/16号） (2) 自治センターだよりに「武石診療所通信」を掲載（11/16、1/16、3/16号） 各種情報発信（予防注射、リハビリ等） エリアトーク、メール、Twitterの配信を随時実施  (3) アンケート結果について意見交換を実施 地域協議会（11月）、住みよい武石をつくる会（12月） (4) 10月～12月（3回実施）  (5) 診療継続計画等に基づき感染症対策を実施 依田窪病院と連携体制について意見交換を実施（随時） (6) 上田市ふるさと寄附金に新たに「地域医療・在宅医療応援事業」を設け、財源の確保を図った。 【件数：1,973件 金額：37,134千円 基金積立：20,634千円】	

特記事項	<p>○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・武石地域総合センター整備は、開所に向けた準備を行い、武石財産区からの繰入金により武石財産区産認証材を活用することで、地域の資源を生かした住民に親しまれる施設となり、地域の森林資源を内外にPRできます。</li> <li>・また、工事の進展に伴う駐車場の利用制限など細かな情報提供を行い理解を得ながら、影響を最小限に抑えられるよう計画します。</li> <li>・自主防災組織の育成と防災訓練の実施については、住民自治組織への協力を呼びかけ市民協働で取り組みます。</li> <li>・武石診療所の維持・充実、運営あり方の検討等については、武石地域唯一の医療機関として、安全で安心な医療の提供を行い、患者に寄り添った診療所を目指します。</li> </ul>	<p>○取組による効果・残された課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・武石地域総合センターの整備については、武石財産区材を活用したことにより森林資源の循環サイクルの推進もPRもできました。</li> <li>・令和3年度以降についても、令和5年度の事業完了に向けて各種調整を図る必要があります。</li> <li>・自主防災組織の育成と防災訓練の実施については、今後も継続して住民自治組織への協力を呼びかけ市民協働で取組む必要があります。</li> <li>・武石診療所基金の枯渇が予測されている中で、令和2年8月に上田市ふるさと寄附金「在宅医療・地域医療応援事業」を新たにコース設定し、財源の確保に努めることができたが、毎年、同額の寄附をいただけるか不確定である。</li> <li>・診療継続計画を定め、新型コロナウイルス感染予防対策に努めているが、診療所のスタッフがり患した場合には、休診をせざるを得ないことが考えられる。また、医師や看護師の働き方改革等、診療所を一人の医師が担うことも限界がきている。</li> <li>・こうしたことから、今後も持続的に武石地域で医療サービスの提供が行われるよう、武石診療所のあり方・方向付けが必要である。</li> </ul>
------	--	---

令和2年度 重点目標管理シート

重点目標	観光資源を生かした交流人口の拡大と農業資源の実用化・災害復旧事業の推進		部局名	武石地域自治センター	優先順位	3位
総合計画における位置付け	第3編 誰もがいきいき働き産業が育つまちづくり 第1章 次代へつなぐ農林水産業の振興 第2節 農林業の安定的な生産体制の整備と産地化の推進 第3編 誰もがいきいき働き産業が育つまちづくり 第3章 魅力ある観光地づくり 第1節 おもてなしで迎える観光の振興		戦略 1 上田で働きたい戦略 施策体系 ④農林業の稼ぐ力の創出  戦略 3 訪れたい・住みたいうた戦略 施策体系 ①地域資源を生かした知名度アップと交流促進			
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(1)住みたい住み続けたいと思うまちづくりへの改革 イ多様な主体が市政に参画・協働する制度づくり (2)支える財政基盤の改革 エ受益と負担のあり方の見直し		上田再構築プラン「7つの挑戦」における位置付け		Ⅲ-3-② 6次産業化の取組み支援と上田の地域特性を生かした「上田ブランド」を育成・発展させ、世界に発信。	
現況・課題	○観光施設等の管理、運営については、今後も公共施設マネジメントの取組が必要です。 ○友好都市との交流については、練馬区と共に育んできた文化、教育、産業等の交流をさらに深める取組により、関係人口の増加による地域の活性化を図る必要があります。 ○広域関係自治体との連携については、誘客に向けて魅力ある観光地を集結し、広域的に関係自治体が連携することで、それぞれの観光資源を点ではなく面でアピールする取組が必要です。 ○県営中山間総合整備事業の推進については、地域の老朽化した農業生産基盤施設の改修や営農の効率化を図るため、計画的に進める必要があります。 ○多面的機能支払交付金事業の推進については、今後も、地域団体と協働により、農地の維持、地域資源の質的向上、施設の長寿命化の確保を図っていく必要があります。 ○令和元年東日本台風により甚大な被害が発生した農地農業用施設・公共土木施設・観光施設等の、計画的かつ速やかな復旧事業推進が必要です。					
目的・効果	○観光施設等の管理、運営は、公共施設マネジメントの取組により、適切に維持管理、時代の変化に対応させつつ有効に活用することで、必要なサービスの提供を将来にわたり継続していくことを目的とします。 ○友好都市との交流については、交流イベント等を積極的に活用し、地元農産物販売、観光PR、雲渓荘PRにより、誘客による地域の活性化を図ります。 ○広域関係自治体との連携では、美ヶ原高原広域連携、ビーナスライン沿線広域連携において、自然をテーマとして広域的に関係自治体が連携した観光資源のアピールと効果的な観光客誘致を図ることで地域の活性化を図ります。 ○県営中山間総合整備事業については、地域の老朽化した農業生産基盤施設の改修等を計画的に整備推進することで、効率的な営農環境の確保を図ります。 ○多面的機能支払交付金事業の推進については、加入組織の拡大により、地域協働により効率的な農地の維持、地域資源の質的向上、施設の長寿命化を図ります。 ○災害復旧事業の推進により、地域の安全・安心な生活環境の確保を図ります。					
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
①	○ 観光施設等の管理、運営あり方の検討等 (1) 岳の湯温泉雲渓荘、武石番所ヶ原スキー場、武石温泉 うつくしの湯、巢栗渓谷緑の広場（庁内検討会・あり方検討委員会の開催）	(1) 5月～3月	(1) 検討会等 5回以上	(1) 施設の適正な管理、運営利用促進、誘客により地域の活性化を検討した。 ア 庁内検討会を2回開催した。(7月13日、7月20日) イ 指定管理者と意見交換会を2回開催した(7月27日、8月6日) 美ヶ原高原、番所ヶ原スキー場、巢栗渓谷整備計画について協議した。 ウ 雲渓荘の利用促進を問うアンケートの実施と改善を図った。武石地域協議会へ情報提供を行った。	(1) 施設の適正な管理、運営利用促進、誘客により地域の活性化を検討した。 ア 庁内検討会 開催日：7/13、7/20、10/26、12/25 イ 指定管理者と意見交換会 開催日：7/27、8/6、10/2、1/15 美ヶ原高原、番所ヶ原スキー場、巢栗渓谷整備計画について協議した。 ウ 雲渓荘の利用促進を問うアンケートの実施と改善を図った。武石地域協議会へ情報提供を行った。	
②	○ 友好提携都市との交流及び広域関係自治体との連携 (1) 練馬区との交流（練馬まつり他） (2) 美ヶ原高原の広域連携による事業推進（ササ刈り、美ヶ原ノルディックウォーキング）  (3) 信州ビーナスラインの沿線広域連携による事業推進（企画運営部会）	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月  (3) 4月～3月	(1) 地元農産物販売、観光PR (2) 広域的な市民参加イベント、観光PR及び誘客 延べ140人  (3) 2回	(1) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。 (2) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため縮小、中止となった。 ア 春のササ刈り 中止 秋のササ刈り 武石地域自治センターの職員のみで、実施を計画中 (3) 信州ビーナスライン連携協議会総会 書面開催：6月23日 エコレンタカーでめぐろ！などの事業を実施した。	(1) 新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止となった。 (2) 新型コロナウイルス感染拡大予防のため縮小、中止となった。 ア 春のササ刈り 中止 秋のササ刈り 10/7に武石地域自治センターのみで、実施 (3) 信州ビーナスライン連携協議会総会 書面開催：6月23日 エコレンタカーでめぐろ！などの事業を実施した。	
③	○ 県営中山間総合整備事業（美の郷地区）の推進（H29から継続事業） (1) 実施個所である地元との調整及び協議、説明会	(1) 4月～3月	(1) 2工区 3回以上	(1)・築地原工区調整会議を1回実施した。 ・浦二本木工区役員説明会を1回実施した。  令和2年度は築地原工区工事及び浦二本木工区測量設計を予定しており、概ね予定通りの進捗である。	(1) 11月に浦二本木工区における事業用地取得に伴う地権者説明および現地境界立合いを実施し、事業主体である上田地域振興局が予定していた工程までの事業進捗を図った。 当初予定していた築地原工区の工事は、災害等の影響により入札不調となったことから、次年度実施となった。	
④	○ 多面的機能支払交付金事業の推進 (1) 自治会等への説明と組織の設立支援 (2) 活動組織への指導、助言	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) 制度の周知と設立支援 5回以上 (2) 4組織を対象に随時	(1) セブ自治会設立支援打合せを5回実施した。 (2) 現時点では設立組織からの要請なし。 セブ自治会は今年度設立に向け打合せ準備をしてきたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止により総会が開催できず、次年度以降の設立を目指すこととなった。	(1) セブ自治会設立支援打合せ 5回実施 (2) 現時点では設立組織からの要請なし セブ自治会は今年度設立に向け打合せ準備を実施してきたが、コロナ禍により総会開催できないことから次年度以降の設立を目指すこととなった。	
⑤	○ 人・農地プラン実質化への取組み (1) 実質化へ向けた地域懇談会の開催	(1) 4月～3月	(1) 18自治会で開催	(1) 地域懇談会の開催に向けての事前検討会を7/27に開催し、地域懇談会の内容について協議した。 10月20日から10月30日まで全8回、各地域で地域懇談会を開催予定。	(1) 7月の事前検討会において懇談内容を協議のうえ、10月に各地域での地域懇談会（全8回）を開催。2月15日、書面会議にてプラン案に係る意見集約を再度実施。3月19日、市全体の検討会においてプランが承認された。	

	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）
⑥	<p>○ 東日本台風被災箇所への復旧事業の推進</p> <p>(1) 復旧事業推進に向けた地元調整（自治会、地権者、受益者）</p> <p>(2) 武石番所ヶ原スキー場の円滑な災害復旧工事の推進</p> <p>(3) 焼山沢登山道の円滑な復旧工事の推進</p>	<p>(1) 4月～3月</p> <p>(2) ～12月</p> <p>(3) 4月～3月</p>	<p>(1) 10回以上</p> <p>(2) 竣工</p> <p>(3) 測量設計</p>	<p>(1) 工事実施に伴う地元調整を21回実施した。（14件発注済）</p> <p>(2) 速やかな契約、着手、適正な監督管理により災害復旧を鋭意進めている。 ア 第1リフト災害復旧工事を4月20日に請負契約の締結 イ 第2リフト災害復旧工事を4月24日に請負契約の締結 ウ 市単災害復旧工事を4月30日に請負契約の締結</p> <p>(3) 速やかな契約、着手、測量設計業務により実施設計書の作成を鋭意進めている。 ア 焼山沢登山道災害復旧測量設計業務委託を6月16日に請負契約の締結した。</p>	<p>(1) 工事施工箇所の自治会・関係地権者との調整を実施し、災害復旧事業を実施した。（46件発注済、41件完了）</p> <p>(2) 適正な監督管理により災害復旧が完成された。 ア 第1リフト災害復旧工事を12月25日にしゅん工 イ 第2リフト災害復旧工事を12月6日にしゅん工 ウ 市単災害復旧工事を11月17日にしゅん工</p> <p>(3) 適切な監督管理により実施設計書が納品された。 ア 焼山沢登山道災害復旧測量設計業務委託を12月4日に業務完了</p>
特記事項	<p>○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点</p> <p>・雲溪荘の利用促進を図るために、アンケートを実施してアイデアを募集して、使って残す活動を市民協働で取り組みます。</p>			<p>○取組による効果・残された課題</p> <p>・雲溪荘の利用促進を問うアンケートの実施と改善を図りましたが、新型コロナウイルスの影響により効果が見られませんでした。</p> <p>・友好都市練馬区との交流については、新型コロナウイルスの影響により交流が出来ませんでした。 アフターコロナを見据えた新たな相互交流を模索する必要があります。</p> <p>・令和元年東日本台風被災箇所への復旧事業の推進については、引き続き円滑な復旧工事の推進することで早期復興を目指すことが必要です。</p>	